



大胆な筆遣いで白い布に色を塗っていく子どもたち  
7日、大津町

## のびのびアートで心ケア

大津町 崇城大生ら子どもたちと

絵を描いて熊本地震によるストレスを軽減するという「心をケアするアートプロジェクト」が7日、大津町大津の森林「オズの森」であった。崇城大芸術学部が主催し、東京芸大、東京学芸大の学生らと企画を考案。色とりどりの絵を描いた子どもたちが、自由な表現活動を満喫した。

2～6歳児と保護者の計約30人が参加。崇城大の学生ら15人と一緒に縦1.2m、横15mの白い布2枚に、筆や手を使いアクリル絵の具で色を付けた。

明るい紫色の線を描いた熊本市中央区の前田昇一郎君(6)は「いろいろな色を使って楽しい。太陽に当たるときれいに見える」と満足した様子。崇城大大学院美術学科修士課程2年の木下裕介さん(23)は「表現することでストレスを気兼ねなく発散してほしい」と話していた。

障害者や認知症患者らのアートプログラムを手掛ける東京都の会社「プログラムアートARTMAN」などが協力。御船町の老人福祉施設でも6日、布の染色に取り組んだ。  
(富田ともみ)